

エンゼルウィング・シングルウィングズ

作 四方田 直樹

登場人物

※ 役名の下の記号(○●▲△■など)が同じ役は同じ役者が演じることを想定しているが必ずしもそうである必要はない。

第一幕 (1985年～1986年)

田部夏子(たなべなつこ) — なつこ(ト書きは田部なつこと表記)

主婦 32歳。○

矢野夏子(やのなつこ) — ナツコ(ト書きは矢野ナツコと表記)

デパート勤務 32歳。●

田部信之(たなべのぶゆき) — 信之 田部夏子の世界では夫。

矢野夏子の世界では同僚。デパート勤務 34歳。△

北川トキ子(きたがわときこ) — トキ子 夏子の叔母。48歳。■

北川昭一(きたがわしょういち) — 昭一 トキ子の夫。医師。50歳□

後輩1 — 男性。矢野夏子と田部信之の後輩。27歳。◇

後輩2 — 女性。矢野夏子と田部信之の後輩。26歳。◆

救急隊員1 ▲

救急隊員2 ◇

救急隊員3 ◆

第二幕 (2017年～2018年)

田部優羽(たなべゆう) — 優羽 派遣社員。なつこの娘。31歳。○

田部美羽(たなべみう) — 美羽 家事手伝い。ナツコの娘。31歳。●

田部夏子(たなべなつこ) — 夏子 無職 64歳。■

田部大地(たなべだいち) — 大地 会社員。優羽と美羽の弟。24歳。◇

阿佐美かりん(あさみかりん) — かりん 派遣社員。大地の婚約者。24歳。◆

石川明生(いしかわあきお) — 明生 役者。優羽のサークル仲間。29歳。▲

北川正志(きたがわただし) — 正志 トキ子と昭一の息子。医師。45歳。□

田部信之(たなべのぶゆき) — 信之 ナツコの元同僚 62歳。△

役者1 ボランティアサークルのメンバー ■

役者2 ボランティアサークルのメンバー △

役者3 ボランティアサークルのメンバー □

第一幕

1

二つの世界。2つの部屋が舞台のお話です。

【上手の部屋】 田部夏子（田部なつこ）、信之夫婦が住む一軒家。

埼玉県北部の人口10万人強の地方都市の郊外。

ダイニングキッチン。流し、コンロの脇に冷蔵庫、電子レンジ。中央にテーブル。食器棚の一部に14インチのテレビがおかれている。

上手前面に入口。その先は廊下で玄関やトイレ、風呂場などもそちらにある。奥は庭に抜けるガラス窓。客席からは見えないが、下手方向に犬小屋があり、「タロー」と言う名の犬を飼っている。下手はふすま。隣の部屋（寝室で、その部屋には洋タンスがある）につながっている。

【下手の部屋】 矢野夏子（矢野ナツコ）の部屋（1DKのマンション）。玄関のある六畳ほどの部屋（一応ダイニング）。下手の暖簾の先に台所、トイレ、浴室へ続く入口。上手に洋タンス（観音開き）とその隣に寝室に使っている部屋の入口。

1985年（昭和60年）3月28日。木曜日。
21時すぎ。

【上手の部屋】

テーブルには手付かずの夕食。その上に虫除けカバー（蠅帳）がかかっている。

イスにすわっている田部なつこ、夫の帰りを待っている。

【下手の部屋】

矢野ナツコが帰ってくる。仕事がえり。

ナツコ 「ただいま」

矢野ナツコ、玄関の鍵を無造作にカバンにもどしながら。玄関脇に座りこむ。

【上手の部屋】

寝室にある柱時計が「ポーン」と鳴り。9時30分を告げる。

田部なつこ、なにか思い出したように急に話し始める。

なつこ 「あいうえお。かきくけこ。だんなをおくりだしてからひとこともしゃべってなかったぞ。さしすせそたちつと、どーはドーナツのど。のぶおおそくなるならでんわよこせばか」

田部なつこ、テーブルに頭を伏せる。

田部なつこと矢野ナツコ、無意識に一点をみつめている（考え事をしてい

る）
二人、偶然にも同じフレーズを口に出す。

なつこ 「しあわせなら手をたたこう」
ナツコ 「しあわせなら手をたたこう」

二人、「パンパン」と手をたたく。

【上手の部屋】

寝室から鞆がころがってくる。

なつこ 「?」

田部なつこ、立ち上がり鞆を拾い、転がってきた寝室方向を見る。

【下手の部屋】

洋タンスの扉が少し空き、鞆が転がり出てくる。

ナツコ 「わあ！」

矢野ナツコ、鞆を見る。

ナツコ 「びっくりした〜」

矢野ナツコ、立ち上がり鞆を拾う。

こんなの持ってたっけ？という感じで首をひねった後、洋タンスの扉を開け、鞆を元に戻そうとするが、タンスの中がちよっとおかしい。タンスから空気の流れを感じてしまう。

ナツコ 「風？」

矢野ナツコ、洋タンスの奥をまさぐる。あるはずの奥の壁がなく、空間がつづいている？

ナツコ 「え？」

矢野ナツコ、壁を確認できないのでさらに身を洋タンスの中に入れる。矢野ナツコの部屋の洋タンスの先は、田部なつこの家の洋タンスにつながってしまったっており、世界を越えて、矢野ナツコがなつこの洋タンスから転がり落ちる。

ナツコ 「わあ！」

【上手の部屋】

寢室から矢野ナツコが転がり出てくる。
矢野ナツコ、そのまま倒れこむ。

なつこ 「!!わあああああ!!」

ナツコ 「痛ったあ」

田部なつこの叫び声に反応して庭で犬のタローが吠える。
犬の鳴き声 「ウオウオウオオ!…」 (定期的にしばらく鳴いている)

なつこ 「どどどろぼう!!」

ナツコ 「ちが、なに?どこ(どこ?)、え?」

田部なつこ、オタマを持出し、構える。

矢野ナツコが顔を上げる。二人、初めてお互いを見る。

二人 「……。」

なつこ 「あれ?」

ナツコ 「家!?!」

なつこ 「は?」

ナツコ 「どこ?」

なつこ 「深谷だけど?」

ナツコ 「そう深谷!わあ」

なつこ 「どこかで会ったことある?」

ナツコ 「洗面台」

なつこ 「せんめんだい?ああ!うん。え?」

矢野ナツコ、田部なつこを指差す。

ナツコ 「矢野夏子!」

なつこ 「今は田部だけど」

ナツコ 「結婚してんの!？」

なつこ 「名前なんですっててるの？」

ナツコ 「私も矢野夏子」

なつこ 「え？」

矢野ナツコ、田部なつこの手をひき、寝室、洋タンスの前に連れてゆく。

なつこの声 「え？なに？タンス？なに？」

【下手の部屋】

田部なつこと矢野ナツコが洋タンスから顔を出す。

なつこ 「なにこれ？」

ナツコ 「私の部屋」

二人、頭を引っ込め、洋タンスの中へ。

【上手の部屋】

寝室から二人しゃべりながら出てくる。

なつこ 「昭和27年？」

ナツコ 「8月1日金曜日、お父さん」

なつこ 「征一郎、お母さんは？」

ナツコ 「ハル」

なつこ 「ほくろ」

ナツコ 「左胸の上。なんで？家？結婚したのに？」

なつこ 「空き家にしてもしょうがないでしょ？」

ナツコ 「田部って言ったよね!？」

なつこ 「え？」

ナツコ 「田部君と結婚したの!？」

なつこ 「あ、うん」

矢野ナツコ、頭を抱えて天井を見る。

ナツコ 「マイゴ(オーマイゴッド)！」

矢野ナツコ、そのままイスに座る。

なつこ 「信之と結婚してないの？」

矢野ナツコ、頷く。

なつこ 「つきあってはいた？」

矢野ナツコ、頷く。

なつこ 「今は？」

矢野ナツコ、首を横にふる。

なつこ 「……あなた、私？」

ナツコ 「そうっぽい」

田部なつこ、そわそわしつつ、その場で手足を動かしながら考える。

田部なつこ、矢野ナツコを見る。

なつこ 「こういうときはどういう風にしたらいいのかな？」

犬の鳴き声 「ウオウオウオ!…」

矢野ナツコ、田部なつこを見る。

ナツコ 「タロー居るの!？」

なつこ 「え？」

矢野ナツコ、奥のガラス窓をあけて、外においてあったサンダルを履き、庭に出て、犬が居る方向に駆け出す。

ナツコの声 「タロー!!!」

先ほどの警戒とは違う、嬉しそうな犬の鳴き声とする。

「ワウワウオーン」

ナツコの声 「よしよしよしよし……ハハハ、タロー!!」

田部なつこが窓際に立ち庭の犬小屋の方を覗く。

なつこ 「飼ってないの？」

ナツコの声 「マンションだから。おばちゃんちに引き取ってもらった」

なつこ 「トキちゃん?ああ、お医者さんちだもんね」

ナツコの声 「ハハハ!タローキヨロキヨロ見て!とまどつてら。どっちが夏子かな?どっちもだよ!」

矢野ナツコ、戻ってくる。手に犬の散歩紐。

紐の先で、犬が引っ張っているという感じ。

ナツコ 「トキちゃんちのご飯美味しかったらしくて。ぶくぶく太って肥満で死んじゃった」

なつこ 「タロー?」

ナツコ 「散歩連れてっていい?」

なつこ 「え?」

犬、紐を引つ張る。矢野ナツコ引つ張られる。

ナツコ 「ととと！行く気まんまん！」

矢野ナツコ、引つ張られながら去る。

なつこ 「まっつてよ！」

ナツコの声 「早く！」

なつこ 「つかけないんだから。玄関の方でまっつてて！」

田部なつこ、ガラス窓の鍵を閉め、玄関に去る。

しばらくして。

田部信之が仕事から帰ってくる。スーツ。手にカバン。

信之 「ただいまー」

信之、ネクタイを緩めながら

信之 「ただいまー」

信之、寢室を覗く。

信之 「ただいまー」

信之、テーブルの夕食を見ながら思い出したようにカバンから弁当箱が入った包みを取り出す。

信之、弁当の包みをほどき、弁当箱をあける。

弁当に入ってた骨付き唐揚げの骨を取り出す。

奥の窓ガラスを開け、骨を犬に放り投げてあげようとする。

信之 「タローさん。骨……」

信之、犬小屋の方を見る。犬が居ないことに気がつく。

信之 「散歩かあ」

信之、部屋にかかっている時計をみつ、テーブル脇にもどり骨を弁当箱に戻す。そして、その弁当箱を台所のシンクに置く。

信之、カバンを持って寝室へ去る。

田部なつこと矢野ナツコ、庭に現れる（散歩のかえり）。

田部なつこが犬の紐を持っている。

ナツコ 「アタシの部屋、分譲だよ」

なつこ 「うそ？あ、売ったの家？」

ナツコ 「そ、もうないのこの家、ウチのほうじゃ」

なつこ 「そっか」

矢野ナツコ、先に部屋に上がる。

田部なつこ、犬を犬小屋につなぎに去る。

ナツコ 「お茶入れていい？」

なつこの声 「どうぞ」

矢野ナツコ、テーブルの急須と茶筒を持ち、台所のポットの側でお茶を入れる。

信之、戻ってくる。ランニングシャツにトランクス姿。

矢野ナツコに近づき、矢野ナツコのお尻を両手でさわる。

ナツコ うわ！

矢野ナツコ、驚いて振り返る。

信之 「そんなの持ってたっけ？」

ナツコ 「お茶？」

信之 「服、よそ行きの」

ナツコ 「あ、うん」

矢野ナツコ、自分のおしりに手を当てている。

信之、矢野ナツコを抱きしめる。

信之 「あーつかれた」

ナツコ 「うあー！」

矢野ナツコ、信之を突き放す。

信之 「なに？」

ナツコ 「……なあんでも」

信之 「くしゅん！……風呂沸いてる？」

ナツコ 「あー」

庭になつこがサッと現れ、両手でマルをつくる。

ナツコ 「沸いてる沸いてる」

信之、廊下に行く。

廊下から信之の声

信之の声 「バスタオルはー？」

田部なつこが部屋に入りながら廊下の方向に向かって答える。

なつこ 「かかっているでしょー？後で下着おいとくから」
信之の声 「んー」

なつこ 「ごめんごめん」
ナツコ 「ううん」
なつこ 「おはずかしいものを……」
ナツコ 「気にすんなよ私じゃない」
なつこ 「あ、そうね(笑)」
ナツコ 「(笑)今日は帰る」
なつこ 「そうして」

二人、寝室へ。

【下手の部屋】

矢野ナツコが洋ダンスから出てくる。
田部なつこが洋ダンスから上半身を出す。

なつこ 「水曜日が休みでしょ？」
ナツコ 「うん」
なつこ 「じゃ、水曜の昼に」
ナツコ 「田辺君も休みなんじゃない？」
なつこ 「営業部に移ったから暦通りなの休み」
ナツコ 「バイヤー？出世じゃない」
なつこ 「その分帰日も遅くて」
ナツコ 「ウチの方じゃまだ売場に居るけどねヤツ」
なつこ 「私、久々すごいしゃべった。ありがとう」
ナツコ 「そう？どういたしまして？」

なつこ 「じゃあ、えつと夏子」

ナツコ 「うん。夏子」

なつこ 「またね夏子」

ナツコ 「うん夏子」

田部なつこ、洋タンスの奥に去る。

矢野ナツコ、ゆっくり洋タンスの扉を閉める。

【上手の部屋】

田部なつこが戻ってくる。

転。